



JASDAQ

平成26年11月18日

各 位

会 社 名 株式会社日本マイクロニクス
代表者名 代表取締役社長 長谷川正義
(JASDAQ・コード6871)
問 合 せ 先 常務取締役管理本部長 齋藤 太
T E L 0 4 2 2 - 2 1 - 2 6 6 5

新中期経営計画策定に関するお知らせ

当社はこの度、今年度を初年度とし、2017年度を最終年度とする新中期経営計画『Challenge17』を下記の通り策定しましたので、お知らせいたします。

記

1. 新中期経営計画『Challenge17』(2015年度-2017年度)概要

当社グループは、前中期経営計画『Challenge14』(2012年度-2014年度)において、世界及び日本がリーマンショックや東日本大震災等から経済復興を図る中、急激な環境変化に強い会社となることを目指し、成長し続けるための事業や製品、人材の育成に努めてまいりました。しかしながら、期間中、当社グループが属する半導体、及びフラットパネルディスプレイ業界自体が、大きな転換期を迎える事態に直面し、当社グループは自社の体制強化を優先事項とし、事業構造改革を実施するにいたりました。

新中期経営計画『Challenge17』(2015年度-2017年度)では、事業構造改革で立て直した企業体質を強靱なものとし、新たな成長のステップを確実に踏むための地盤づくりを行います。

2. 経営ビジョン(目指す姿)

「強靱な企業体質を基盤に、新たな成長に挑んでいく企業」

3. 基本方針と重点施策

- (1) 構造改革を完遂し、筋肉質な企業体質を構築
- (2) 将来に向けた種まきと成長の芽の育成を積極的に推進

<プローブカード事業>

- ・リーディングカンパニーに相応しい事業の継続で、顧客満足度を向上
- ・ロジック市場向け製品の充実と売上拡大で、相対的にメモリ市場向け製品依存度を低減
- ・最先端技術開発の強化及び原価低減の実施
- ・海外対応力強化を推進

<TE事業>

- ・FPD関連装置から半導体関連装置へ軸足をシフト
- ・半導体テストビジネスを中心として安定収益モデルを確立し、FPD関連装置はビジネスの選択と集中で収益を向上
- ・新規テストの開発、新規ビジネス開拓を加速

〈製品技術開発〉

◇ 二次電池

- ・ 事業確立に向け、製品化を推進
- ・ 性能向上のための要素技術開発、製品化のための製造プロセス・実装技術の開発を促進
- ・ 試作（開発）ラインによる量産化技術を確立し、量産試行ラインの設置及び稼働を目指す

◇ 既存及び新規分野

- ・ 将来に向けた要素技術開発や応用技術開発及び製品や技術の改良・応用開発を継続推進
- ・ 新規事業開拓のための市場調査活動を強化

〈組織・人材〉

- ・ 柔軟で機動的な組織と創造性豊かな個人による、より強靱な企業体質を形成
- ・ 意識改革を継続し、企業文化の浸透を図り、次世代リーダーとなる人材育成に努める
- ・ 英語教育・研修制度の充実により、グローバル人材の更なる拡充を図る

4. 連結数値目標

(単位：億円)

	2014.9期実績	2015.9期予想	2017.9期目標
連結売上高	291	270	310
プローブカード事業	243	225	260
TE事業	47	45	50
営業利益	32.3	22	40

※3カ年の平均想定為替レート 1ドル=100円

※2015年9月期から「装置事業部」は、「TE事業部」に組織名称を変更しています。(TE:Test Equipment)

5. 投資計画

将来の事業を見据え、積極的かつ継続的な投資を実施する。

研究開発投資	約100億円（3カ年累計）
設備投資	約90億円（3カ年累計）

本資料に記載されている内容は、現時点において入手可能な情報及び一定の前提に基づき作成したものであり、記載された業績目標、将来の計画数値、施策等の実現を確約したり、保証するものではありません。今後の様々な要因により、実際の成果、業績等は、本資料の記載内容と異なる結果となる可能性があります。

以上